

人口減少問題とホットスポット

3月定例議会で、気になることの一つに人口減少問題があります。総務省の住民基本台帳・人口移動報告によると、2012年（平成24年）の千葉県の人口転出超過数は8,188人でした。これは、前年の減少人数の3,935人を大幅に上回る結果です。東日本大震災の影響によるホットスポット（放射線量の高い地域）問題や液状化被害による影響が、この転出超過数の大幅増加という最悪の結果を招いたと指摘されています。

我孫子市は転出超過数上位のワースト自治体の一つで、全国で第11位の1,096人の減少という厳しい結果が示されました。（ちなみに1位：市川市、2位：郡山市、3位：松戸市、4位：福島市、5位：いわき市、6位：浦安市と、千葉県と福島県が上位を占める）人口の増減は大きく2つの要因に分けられます。一つは自然の増減。生まれた人と亡くなられた人の増減です。我孫子市の自然増減要因では、約200人の減でした。もう一つは社会的な要因による増減で、大規模マンションの建設や都市開発による人口の増減などです。我孫子市では、この社会的要因の観点で転出が転入を約900人と上回ってしまいました。転出超過となった要因として、ホットスポットや液状化被害に加えて高濃度の放射性物質を含む焼却灰の一時保管場所・手賀沼下水道終末処理場問題を抱えるなどによる風評被害が影響したと指摘する声も多く出ています。

私は人口減少の要因としては単にホットスポット・放射能問題だけでなく、超高齢化の余波や不動産の下落などによる東京志向が鮮明になっていることも大きく影響しているものと理解しています。しかし、いずれにしても、この人口減少問題は何としても、克服していかねばならない我孫子市の重要課題となっています。

3月定例市議会では予算として、「若い世代の定住化」を促進するため、人口動向の分析や、転入者・転出者に対するアンケート調査の分析を行うための委託料が計上されています。分析結果を踏まえ、今後の人口推計を行い、子育て支援策をはじめとした様々な定住化策について鋭意検討を進めていくことになっています。



宏と語る小さな小さな ティーパーティー開催中！

お気軽にお電話下さい。
行政相談もこちらへ！
ご意見をお待ちしています。

いんなん ひろし
印南 宏

後援会事務局 7184-2860
自宅 7189-1598
住所 我孫子市布佐平和台 7-1-18
ブログ <http://hiroshi4649.at.webry.info/>
E-MAIL innami@mqd.biglobe.ne.jp



ほっと Communication

印南 宏後援会 会報

2013.3.28 No.58

桜も開花し、希望に膨らむ季節を迎えています。新年度に入ると新たな生活を始める人も多くなります。ただ、今年は寒い日が続いていたと思ったら、急に暖かい日に、そして、突然、嵐のような天候になるなど、異常気象の年となっています。新たな生活をこの春からスタートする皆さんは、どうか体に気をつけて、早く、自分に合ったスタイルやペースを見つけるように努めていただきたいと思います。

さて、政治の世界は株高・円安を進める「アベノミクス」で代表される、安倍政権は順調な滑り出しをしているようです。心配なことは円が急落するとエネルギー価格がダイレクトに上がり、家計の負担が増してきます。その一方でサラリーマン等の給料がすぐに上がることは考えられません。円安で利益が上がる輸出企業などでは給与の賃上げが一部は期待できるものの日本全体で賃金ベースが上がることは、アベノミクスが、今後うまく機能したとしても、2～3年のタイムラグが出るものと思っています。

千葉県では3月17日投開票の、知事選挙が行われ、ほとんどの政党が相乗りした森田健作氏（現職知事）の続投・再任が決まりました。結果的に信任投票の意味合いが濃い選挙でした。そんな中で、我孫子市における森田氏の得票率は千葉県では最低の67%台（県平均78%）と県内で一番、票の獲得率の低い自治体となりました。理由として考えられるのは我孫子市の意向も聞かずに、高濃度焼却灰の一時保管を強行し、知事として、一度も我孫子市に訪れていないなど県のトップとして放射能問題に対する誠意がまったく感じられないことが主な要因だと私は考えています。

それにしても、全体の投票率が31%台、10人の有権者の内、7人が投票に行かないという現実を考えると、信任されたというものの投票数が少なく、むなしく感じてならないのは私だけではないと思います。

今後、森田知事は千葉県の取り組むべき喫緊の課題である想定より早く始まっている人口減少問題にどう対応していくのか、また福島第一原発事故で発生した指定廃棄物の最終処分場建設など国と市町村との調整役として知事の力量が試されるものと思います。千葉県のトップリーダーとしての自覚と責任ある行動を是非、私ども我孫子市民にも見せてほしいと心より願っています。



『住んでよかった』そして『住んでみたい』と言われる街に

3月議会報告

平成 25 年第一回我孫子市議会定例会が 3 月 22 日（金）に閉会しました。平成 25 年度の一般会計当初予算は対前年度比 4.1%増の 363 億 8 千万円で、この一般会計予算に国民健康保険特別会計や公共下水道特別会計など 5 つの特別会計を加えた予算合計（除く水道）は前年度に比べて 2.6%増の 627 億 1 千万円となりました。

歳入における市税は 5 年前と比較して▲12 億 5 千 3 百万円と年々減り続け、毎年臨時財政対策債など市債（借金）に頼らざるを得ない財政運営となっています。執行部が自ら定めた財政規律も守ることができず、年度末の一般会計の地方債残高はついに 300 億円を超えてしまいました。3.11 東日本大震災の復旧・復興費の需要が大きいのには理解しますが、なお一層の行財政改革の徹底、事業の絞り込みが必要になっています。

また、3 月議会初日に正副議長選挙が行われ、議長に茅野理氏（38 歳）、副議長に内田美恵子氏（62 歳）が選ばれました。なお、議長選では我が会派の早川真氏と茅野理氏が 1 2 票対 1 2 票の同数となり、地方自治法の定めにより、「くじ引き」で議長が選任されました。

印南 宏 総務企画常任委員会 質問と提言

- 男女共同参画に関する事務を市民生活部から総務部に移管することについて！

印南：女性が働きやすい環境というのは、実は「子育てや介護」に忙しい女性のためだけでなく、若者、高齢者、障がい者、外国人などの多様な方々が働きやすい環境でもある。ダイバーシティ（多様性）の考え方で推進していくべきである。

- 我孫子市地域防災計画のあり方！

印南：地域防災計画を単なる作文で終わらせずに、市民にとって真に役に立つ防災計画にしなければならない。自主防災組織の組織化の推進、直下型大地震を想定した防災訓練の実施、地域防災計画の市民への周知策の徹底など提案しました。

- 空き家対策・管理条例の制定を！

印南：超高齢化社会を迎え、市内で空き家が増えることが予想される。空き家管理条例の制定を促すとともに、まちづくりに空き家を活用する施策を提案しました。

その他、人事制度の改革（再任用制度の導入）、ラスパイレスについて、知事選挙の公報のあり方など総務企画常任委員会に関する所管事項について積極的に質問と提言を行いました。

◆*****◆

****「あびこ未来会議」開催のお知らせ****

我孫子市議会の会派（グループ）「あびこ未来」（印南宏代表、早川真、坂巻宗男、飯塚まこと）では、第5回「あびこ未来会議（市政懇談会）」を下記のごとく開催します。

今回も多くの方々のご参加をお待ちしております。（予約の必要はありません。どうぞ、気楽にご参加をお願いします。）

テーマ：我孫子市の諸課題・みんなで考えよう我孫子の未来！
（3月定例会市議会報告・人口減少、内申書の記載ミス問題他）

日 時：5月11日（土）

午前 10時00分～ 新木近隣センター（会議室A）

午後 2時00分～ 近隣センター「こもれび」（和 室）



◆*****◆

教育委員会と内申書の記載ミス問題

～高校入試のための調査書（内申書）記載ミス問題について～

3 月定例会市議会の開催中、白山中で発覚した 25 年度高校入試の可否の判定要素となる調査書（内申書）に記載ミスがあった問題が今議会で大きな争点となりました。

そもそも、高校入試の調査書は学校現場として最も大切且つ慎重に扱わなければならない重要書類です。その書類を作成する過程において、再チェックするシステムが存在せず、今日まで学校現場の秘密事項として事務処理をされています。人間が行っている資料づくりですから、もしかすると過去にもこのようなミスが存在していたのではないかと、容易に推測されます。あつてはならない出来事が起きている現在の教育現場、今回の事件を契機に、なぜこのような記載ミスが起こったのか、その原因の徹底調査、そして二度とあつてはならないことが起こらない新制度の構築を教育委員会全体の問題として早急に作り上げていくことが責務であり、絶対条件となっています。

我孫子市議会は最終日に下記の決議案を提出し本会議において全会一致で可決されました。

■市内中学校の入試用調査書の記載ミスに対する徹底調査及び再発防止を求める決議

今般、市内中学校において入学試験における調査書の記載ミスがあった。またその後、新たな記載ミスが他の中学校でも発覚した。

これらの誤りは、子どもたちの進路に大きな影響を及ぼす可能性があり、教育現場としてはあつてはならないと言わざるを得ない。今回の対象となった子どもとその保護者の方々の心痛は察するに余りある。

これまでの教育関係者による一連の不祥事に続き、今回のこの事件は我孫子市の教育に対する市民の信頼を著しく損なうこととなった。

市民の信頼を回復するため、我孫子市議会として二度とこのような事件を起こすことの無いよう教育委員会に以下の点を強く求める。

1. 調査書の記載ミスがなぜ起こったのか徹底的に調査すること
 2. 二度と起こらないようにするため再発防止策を講じること
- 以上、決議する。 我孫子市議会

我孫子市教育委員会は今回の事件を経て、高校入試の際、提出する調査書（内申書）を生徒に事前開示する方針で検討を進めています。開示する内容は調査書に記載される各教科の 5 段階評価の点数の他、部活動や生徒会活動の記録、英語や漢字、数学などの検定資格の有無などで、生徒との信頼関係を損なわないように、生活態度などの担当の評価は除くことが考えられています。

私は今回の事件を考える時、教育委員会の果たしてきた役割・責任の所在にも問題があるものと思っています。教育現場で起こっている諸問題に教育委員会は今まで、どのような対処をしてきたのか、教育委員会の責任と権限が中途半端になっていないのか、改めて教育委員会の位置付けを明確にする必要があるものと考えています。